

2025 年度
事業計画書

学校法人 藤天使学園

目 次

1 学園の概要	1
(1) はじめに 藤天使学園理事長	1
(2) 建学の精神	2
(3) 藤天使学園の沿革	3
2 2025 年度事業計画の概要	5
(1) 藤女子大学	6
【1】基本方針	6
【2】重点項目	6
【3】教育・研究事業計画	7
【4】施設・設備事業計画	7
【5】その他の事業計画（人事・財務等）	8
(2) 天使大学	8
【1】基本方針	8
【2】重点項目	8
(3) 藤女子中学校・高等学校	9
【1】基本方針	9
【2】重点項目	9
【3】教育・研究事業	10
【4】施設・設備事業計画	11
【5】その他の事業計画（人事・財務等）	11
(4) 幼稚園 各園	12
【1】基本方針	12
【2】重点項目	12
【3】教育・研究事業	12
【4】施設・設備計画	13
【5】その他の事業計画	14

1 学園の概要

(1) はじめに 藤天使学園理事長

学校法人藤天使学園は、ヴェンセスラウス・キノルド司教の要請によって 1920 年にドイツから派遣された、殉教者聖ゲオルギオのフランシスコ修道会修道女たちにより、1925 年に開校した 5 年制の札幌藤高等女学校に始まる学園です。

第二次世界大戦終了後における教育制度改革により、藤女子中学校・藤女子高等学校となり、更に、知性豊かな教養ある職業婦人を養成するために藤女子専門学校・藤女子短期大学・藤女子大学へと続く高等教育機関を設け、日本社会の再建と発展に力を尽くしてまいりました。

一方、マリアの宣教者フランシスコ修道会は 1908 年に札幌に派遣されて施療活動を始め、1911 年には天使病院を開設して北海道の医療に先駆的な貢献をしてきました。この修道会は《藤学園》が高等教育を始めると同時期に《天使学園》を設けて、専門学校から短期大学において看護・栄養教育を行ってきました。そして、修道会の手を離れて 2000 年に四年制大学へ転換し、カトリック大学として高度な専門職業人養成を行ってきました。

藤学園と天使学園というこの二つのカトリック学園は、2024 年 4 月 1 日より一つの学園となり、学校法人藤天使学園となりました。カトリック精神を基盤として教育を行い、一人ひとりとはく神に愛された存在>であるというキリスト教的人間観に基づいて、幼児教育、中等教育、高等教育に全力を尽くします。

2025 年に創立 100 周年を迎える本学園は、創立時から現在に至るまで、本学園を育ててくださった先人たちの献身的な教育活動に思いを馳せながら、私たちは未来へ向って歩んで参ります。

21 世紀の世界に生きる人を育てる学園として、「愛をとおして真理へ」という建学の精神のもと、他者の幸せのために尽くす心を育て、身近な人への温かい心と、世界に向って開かれた心を兼ね備えた、知性豊かで献身的な人間を育てます。

(2) 建学の精神

「愛をとおして真理へ」(Per Caritatem Ad Veritatem)

藤天使学園はカトリック精神に基づいて、神によって与えられた一人ひとりのいのちの尊厳を大切にすることを基盤とします。

神から愛されている存在として自分を受け入れ、自分に刻まれた良心に従って正しく生き、周りの人への愛に努め、さらに世界の人々の平和と幸せのために尽くす心を育てます。私たちは、具体的で身近な愛の実践を通して、より高い真理に到達することを目指します。

創立以来の校訓 「謙遜・忠実・潔白」

教育のモットー 「一人ひとりの 咲くべき花を 咲かせよう

～うつくしく やさしく しなやかに～ 」

(3) 藤天使学園の沿革

(3) -1 藤学園の沿革

1920（大正9）年本学園の創設者であるキノルド司教は、札幌での布教活動の中で、北海道の発展のためには、とりわけ、女子教育が最も重要であると考え、本国ドイツから修道女を招きました。師とともに3人の若き修道女は、信仰心に支えられた情熱と勇気をもって、異国の地札幌に確固とした愛の教育の根を下ろし、今日の藤学園の礎を築きました。

1925（大正14）年「札幌藤高等女学校」として入学者167名で発足しましたが、その後の出生数の急増等に伴い、道内を中心に幼稚園、高等学校、大学等を相次いで開設いたしました。

1934年には、現在の小樽にマリア幼稚園（現小樽藤幼稚園）を開設し、続いて1938年に札幌市に藤幼稚園を開設し、その後も函館藤幼稚園、旭川藤幼稚園、青森藤幼稚園、苫小牧藤幼稚園、草加藤幼稚園、大麻藤幼稚園の8園を1968年までに開設しています。

また札幌藤高等女学校は、1948年に新制度施行に伴い、藤女子高等学校全日課程普通科、同中学校として承継されています。

1947年には、専門学校令により藤女子専門学校（国語科・生活科）が認可され、続く1950年に藤女子短期大学（国文科・英文科・家政科）の開設へと引き継がれています。

1953年には、藤学園旭川高等学校（現旭川藤星高等学校）を開設、翌年藤学園旭川中学校、新懇藤学園中学校を開設し、1956年には北見藤女子高等学校（現北見藤高等学校）、同中学校を開設、1958年には新懇藤学園高等学校を開設しています。

1961年には、北海道初の女子大学として、藤女子大学文学部（英文学科・国文学科）を開設し、1992年には人間生活学部（人間生活学科・食物栄養学科）を設置、2000年には短期大学を改組し、文学部に英語文化学科、日本語・日本文学科、文化総合学科の3学科、人間生活学部人間生活学科、食物栄養学科、保育学科の3学科を設置し、2002年には大学院人間生活学研究科を開設しています。2020年4月には保育学科を改組し、小学校教諭養成課程を併設した、子ども教育学科を設置いたしました。また、2025年4月に人間生活学部（人間生活学科・食物栄養学科）をウェルビーイング学部（地域創生学科・食環境マネジメント学科）、大学院人間生活学研究科をウェルビーイング学部研究科と改称いたしました。

(3) -2 天使学園の沿革

天使学園のルーツは、1908（明治41）年にマリアの宣教者フランシスコ修道会（以下、「FMM」という。）がローマから7名の修道女を札幌に派遣し、開拓民のために施療所（現在の天使病院）を開設したことに始まります。

1935（昭和 10）年、ローマ教皇ピオ 11 世が看護に携わる修道女たちに看護人材の養成に力を注ぐことを勧め、FMM は、札幌と東京で高いレベルの看護教育を始めることを決定し、1947（昭和 22）年、天使大学の前身となる札幌天使女子厚生専門学校を、2 年後に天使女子栄養学院を設立した。1950（昭和 25）年、わが国看護教育初の短期大学になる天使厚生短期大学として認可され、1952（昭和 27）年に天使助産婦学校を開設しています。

1954 年に校名を天使女子短期大学と改称し、1965（昭和 40）年、日本初の短期大学専攻科保健師助産師合同課程を開設しています。

開設以来多くの卒業生を看護師、保健師、助産師、管理栄養士及び栄養士として国内はもとより世界に送り出し高い評価を得てきています。

このような実績を踏まえて、2000（平成 12）年に短期大学から 4 年制の学士課程天使大学に改組いたしました。

天使大学は、看護栄養学部看護学科及び栄養学科に加え、2004 年度に専門職大学院助産研究科を、2006 年度には大学院看護栄養学研究科を開設し、現在では 1 学部 2 学科 2 研究科を擁する大学へと発展しています。

2024 年 4 月 1 日に学校法人藤学園と学校法人天使学園が合併し、学校法人藤天使学園となりました。設置する学校は次の通りです。

藤女子大学	大 学 院	ウェルビーイング学研究科
		英語文化学科
		日本語・日本文学科
	文 学 部	文化総合学科
		地域創生学科
ウェルビーイング学部		食環境マネジメント学科
		子ども教育学科
		助産研究科（専門職大学院）
		看護栄養学研究科
天使大学	大 学 院	看護学科
		栄養学科
	看護栄養学部	
藤女子高等学校（全日制課程）		
藤女子中学校		
藤幼稚園		
函館藤幼稚園		
苫小牧藤幼稚園		

2 2025 年度事業計画の概要

2025年度は、藤天使学園にとって創立100周年の節目の年であり、新たな100年に向けた重要な時に当たります。これまでの歩みを振り返り、今後の社会変化を見据えて新たな学園を目指してまいります。

2025年4月1日から施行される改正私立学校法に対応するため、認可された寄附行為に基づいて学園の運営を進めてまいります。また、学園の諸活動が健全かつ合理的に運営されるよう内部統制システムの整備に努めてまいります。

文部科学省では、中央教育審議会が本年2月に「我が国の『知の総和』向上の未来像～高等教育システムの再構築～」を答申しました。出生数は過去最少を更新し、2040年の大学進学者数は46万人と見込まれるなど、近年の少子化が国の想定を上回る勢いで進行していることを考慮しますと、これからの私立学校の経営は大変厳しい状況になることが想定されます。

学園の各設置校においては、近年、入学者数が定員を割り込む厳しい状況が続いています。こうした状況と将来予測を踏まえると、学園及び各設置校の経営健全化の取組みは急務です。全ての学園関係者は危機感を共有し、各設置校のあり方を抜本的に見つめ直す好機と捉え、今一度、学園の創立者が厳しい環境の中で学校を創設した労苦に思いを致し、予測困難といわれる今日、建学の精神に基づき時代の変化と社会のニーズに応じて必要とされる教育を提供できるよう、学園一丸となって取り組んでまいります。

このため、本年度は、私たちの学園及び各設置校が社会における使命を引き続き果たしていけるよう、「変えられないものを受け容れ、変えられるものを変える」勇気をもって学園中期計画及び喫緊の課題である財政健全化に向けた中期財務計画の策定に着手してまいります。

藤天使学園は、社会の変化を踏まえて健全な学園運営を図るとともに、各設置校は2025年度の基本方針等に基づいて学生、生徒、園児のための教育・研究の推進に努めてまいります。

学校法人藤天使学園の設置する各校の、2025年度の事業計画は以下の通りです。

(1) 藤女子大学

【1】基本方針

教育・研究の一層の高度化により本学のプレゼンスを高めるべく、成果が上がっている既存の取組みを着実に推進していくとともに、「藤女子大学未来共創ビジョン」を具現化するため、第Ⅲ期アクションプランに掲げている諸課題や事業の実現に向けて予算編成を実施する。

収入予算については、事業活動収入の80%超が学生生徒等納付金である実態を踏まえ、学生数の確保が財政上の喫緊課題と認識し、入学定員を充足することと在学率を向上させることを目標とする。また、補助金、寄付金、受託事業収入等の外部資金獲得に努め、特に中長期的な事業計画を推進するための寄付募集については、積極的な募金活動を展開する。

支出予算については、支出総額の抑制を図るため人件費の在り方の見直し（諸手当の削減、採用人事の見直し）を行うとともに、予算配分の抜本的な見直し（予算部門ごとのシーリングの設定及び事業のスクラップ＆ビルド等）を実施する。一方、緊急性が高く、教育環境の向上に資する事業については、ヒアリングを経て「特別予算」として優先的に配分し、意欲的な取組みの推進を図ることとする。

【2】重点項目

- (1) 2024年度に新たに設置された「教学マネジメント会議」及び「管理運営戦略会議」の機能をさらに充実させ、迅速な教育改革への対応や内部質保証を実現するための体制を強化する。
- (2) 休退学者の実態や要因などについて調査し、多様化する学生に対応した教育支援を行うとともに、入学前教育との連続性を踏まえた初年次教育の在り方、休退学者を減少させるための対策・対応について検討する。
- (3) 「教育メディア運営センター」を中心として、GIGAスクール時代に対応するデジタル環境の整備を促進する。
- (4) 「グローバル教育センター」を中心として、国際社会で活躍できる人材の育成を目指した国際交流を推進するとともに、各種海外留学・国内外研修プログラムの効果を高め、同時に留学生受け入れを含めた学内の国際化に資する人的交流を促進する。
- (5) 藤国際フォーラムなど、多様なステークホルダーに宛てた情報公開や社会貢献事業を速やかに行えるよう学内情報を整理し、適切な情報発信及びwebコンテンツの充実を図る。
- (6) 天使大学との教育・研究・事務をはじめとする様々な分野における連携について検討・実施する。
- (7) ・入試日程・入試方法・会場等の課題を整理・検討し、入試制度の改善を図る。

【3】教育・研究事業計画

- (1) 多様な学生に対応するために開設した学修支援室の利用促進ならびにサポート体制の充実に努める。
- (2) 基盤教育科目の実施に向けて、授業内容の整備を行うとともに、実施後検証を行い、改善を図る。
- (3) 学生個々の学修履歴の記録・振り返り等を支援する仕組みを構築するため、本学に適した学修ポートフォリオシステムの導入に向けて検討を行う。
- (4) SA (Student Assistant) の活動や指導内容を精査し、学内での位置づけを明確にし、活動の定着を図る。
- (5) 大学全体のディプロマポリシー、コモン・ルーブリック、アセスメント・ポリシー等を確立し、成績評価体制としてのアセスメント・ポリシーを構築し、学修成果の可視化を図る。
- (6) インターンシップの単位認定制度の実施に向けて準備を行う。
- (7) 藤オープンリサーチフォーラムを実施し、本学教員の研究・教育成果を社会人や高校生とその保護者に広く公開する。
- (8) 危機管理体制を見直し、災害発生時等に迅速かつ実質的に機能できる体制、マニュアル等を早急に整備する。
- (9) 大学教育・研究における産学官連携に向けて体制を整え、地元産業界等と連携した実践的 PBL の実施などを推進・実現する仕組みづくりを行う。
- (10) IR (Institutional Research) の基盤となる本学に関する諸情報を集約・整理・分析し、課題と改善策の検討及び内部質保証における検証体制を整備する。
- (11) 学生のクラブ活動の環境整備と活動の促進を図る。
- (12) キリスト教文化や価値観に触れる機会を地域社会に提供する。

【4】施設・設備事業計画

- (1) 北 16 条校舎 LED 化工事（文部科学省補助金申請）
- (2) 北 16 条校舎食堂・事務室エアコン新設工事
- (3) 花川校舎保育棟屋上防水工事
- (4) 花川校舎食堂・ロッカー施設等環境整備工事
- (5) 花川校舎機械設備等メンテナンス
- (6) 図書館システム更新
- (7) 学内消耗品・印刷機等設備の精査・一元管理の検討・導入

【5】その他の事業計画（人事・財務等）

- (1) 第Ⅲ期アクションプランと関連付けた中長期計画及び財務計画を策定する。
- (2) 新たな予算策定方式（管理会計に資する業務目的別予算等）について検討する。
- (3) 人件費の削減方策に関する検討を継続する。（諸手当の削減及びその他人件費の引き下げ、非常勤講師及び開講科目数の縮減等の検討）
- (4) 教職員の評価制度の導入について検討する。
- (5) 「スカラシップ制度」及び「キノルド司教記念・藤の実奨学金制度」を利用し入学した学生の修学状況について検証し、制度の充実を図る。
- (6) 年次計画によるFD・SD研修会を着実に実施し、全教職員が参加し情報や知識を共有することで教職員の資質向上を目指すとともに、学生参画型のFD・SD活動を開発し導入する。
- (7) 同窓会（藤の実会）の役員との意見交換の場を定期的に設け、生涯教育やホームカミングデー等について協議を行う。
- (8) 藤女子中学・高等学校をはじめとした高大連携の体制を整備し、高大接続講座などをはじめとするさまざまな連携を実現し、受験者拡大を図る。

(2) 天使大学

【1】基本方針

- (1) 天使大学の建学の理念、人事、組織、学修環境、予算等の重要事項について、理事会と連携できるよう管理運営協議会で審議し、学長を支援するために大学の適切な管理運営に努める。
- (2) 大学は、後援会及び同窓会と連携して、在学生、保護者、同窓生、本学志願者、地域住民等に対して、天使大学の現況について積極的に情報発信を行う。
- (3) 安定的な入学者確保のために、既存の入学者選抜の内容及び運営方法を改正し、新たな選抜試験、出願方法及び回答方法等について検討する。
- (4) 看護師・保健師・助産師・管理栄養士等の国家試験受験に向けた学生支援及び就職先の多様化に伴う就職支援を充実させる。
- (5) 法人合併の成果を活かすため、藤女子大学と天使大学で連携し大学改革に協力して取り組む。

【2】2025年度の重点事項

- (1) 教育・研究事業計画
 - ① ディプロマ・ポリシー（DP）到達に向けた適正なカリキュラム運用及び評価・改善並びに学修支援の強化
 - ② 学生によるDP到達度評価及び教員の科目評価の改正

③ 助産研究科助産専攻助産基礎分野のカリキュラム改正

④ 大学基準協会第4期認証評価の受審

(2) 主な施設・設備事業計画

① 6号館外壁タイル調査

② 4号館内壁改修工事

③ アクティブラーニングによる実践力強化のための環境整備（モデル人形等）

④ OSサポート終了に伴う学内の全パソコンの入替

(3) その他の事業計画（人事・財務等）

① 前年度予算から5%のマイナスシーリング予算編成の継続

② 新たに策定される藤天使学園中期計画に連動した天使大学中期計画の検討

③ 藤女子大学と天使大学による職員の人事交流

④ 新たな入学者選抜の検討

(3) 藤女子中学校・高等学校

【1】基本方針

2016年1月に策定された「藤学園が設置する中学校・高等学校における新たな行動計画『ニューアクションプラン』」の実現をはかるために、4点の重点項目（1）カトリック女子校としてのアイデンティティの深化（2）責任ある学習指導と確かな進路実現を図る学習プログラムの改革（3）入学者数の安定的確保を図るための広報・生徒募集の活動の強化（4）長期的・安定的学校運営を図るための財務状況の健全化を設定し、2019年度まで教育・研究事業計画を実行してきた。2025年に藤学園が創立100周年を迎えるにあたって、2020年度から「藤女子中学校・高等学校の未来共創ビジョン」において以下の5点の重点項目を設定している。

【2】重点項目

(1) 未来を切り拓く藤～学びから想像力を養います

変化の激しい時代にも対応できる学びの質を追求し、生徒が豊かな教養と表現力、判断力、思考力を身につけ、生涯学び続ける姿勢を持てるよう導きます。

(2) 地域とつながる藤～社会貢献を推進します

生徒が良心に従って誠実に行動し、家庭や社会の中で他者のために貢献できるよう導きます。

(3) 世界ではばたく藤～国際理解・交流を深めます

生徒が多様な文化への理解を深め、国際人としてのコミュニケーション能力を高められるよう導きます。

(4) 個性の花咲く藤～チャレンジを応援します

一人ひとりの生徒を神から愛されているかけがえのない存在として尊重し、自己肯定感を高め、視野を広げる学びの場に生徒が挑戦できるよう導きます。

(5) 信頼される藤～生徒を守る環境を整えます

安定的な学校運営を行い、災害等あらゆる危機から生徒を守り、安心して学ぶことができる環境を整えます。

【3】教育・研究事業計画

- (1) ①カトリック校の教職員として果たすべき各々の使命や役割を再確認し、各自の年度内目標を達成する。
②カトリック学校の教職員としてその理念を具体的に教育活動に生かすために、また対話による女子教育を深めるために研修を行う。
③ICT 等を活用した個別最適化の授業及び学習到達度をベースにした評価法の研究し、その成果を共有する。
④生徒が自学自習の習慣を身につけ、家庭学習時間を確保するためのサポートを各学年で徹底して行う。
⑤中学学力推移調査、高校模擬試験の結果から学年・教科ごとの課題を職員会議等で共有し、各学年の教科責任者が中心となって各層の生徒を伸ばす効果的な実践を行う。
⑥思考力・判断力・表現力を深めるために生徒がより主体的に取り組む行事を実施し、その成果を検証する。
- (2) ⑦校外でのマナー、校内での挨拶、日常のマナー、ネットリテラシー教育を定期的・継続的に実施する。
⑧伝統的に行われている宗教行事や瞑目、清掃指導等の意義や実施方法を再確認し、全教職員が一体となって取り組む。
⑨LHR や行事を通して身近な環境問題や社会福祉活動等について学び、生徒のボランティア活動を促進する。
⑩学校祭、オーケストラ部定期演奏会等を広報し、地域住民との交流を行う。
⑪中学では入試の成績優秀者に奨学金等、高校では入試及び在校生の成績優秀者を特待生とし、就学支援を行う。
- (3) ⑫外部プログラムなどによって、SDG s 等について学び、その解決のための主体的・具体的な行動が可能になる機会を設ける。
⑬アイルランド姉妹校交流、英国、オーストラリア等の海外研修、上智大学のタイ・スタディツアーなど多様な国際交流プログラムを実施する。
⑭英語力の向上を目指し、LC のレベル別選択授業や英検講座等の内容を充実させる。

- (4) ⑮行事におけるクラス・学年の交流、他学年との交流を通して、生徒が物事の良い面を見つめ、他者に対する思いやりを持てるように導く。
- ⑯「未来の私プログラム」を各学年で実施するほか、生徒のロールモデルとなるような人物の講演会や生徒の視野を広げる学びの場の提供を行う。
- ⑰将来の学びにつながる中高大連携プログラムを充実させ、生徒のチャレンジを促す。
- (5) ⑱保護者との連携を強化するため、教務システム BLEND の更なる活用を推進する。
- ⑲感染症発生・災害時に対応できるよう備蓄品を確保し、教職員で定期的な訓練を実施する。
- ⑳保護者と教職員の協力によって、新体制の PTA（研修部・手芸部・企画部）を充実させる。
- ㉑生徒数に応じた学級数と人件費などの適正化を行い、安定した学校経営を行う。
- ㉒中学入試、高校入試ともに、十分な広報活動を行う。

【4】施設・設備事業計画

- (1) 施設及び設備の適切な維持管理、施設の長寿命化
- ・既存エアコンの更新、暖房用ボイラーの更新など
- (2) その他
- ・学習環境に配慮した施設・設備の整備（冷房未設置の調理室、被服室、書道室、美術室、化学実験室、藤波会室への冷房設備整備、畳スペースの畳表替え等）の検討
 - ・教職員業務用 PC の更新
 - ・藤の木会館の有効活用の検討並びに老朽化設備等の更新（配管改修など）、談話室の有効活用の検討など
- (3) 学園創立 100 周年事業関連
- ・ラーニングコモンズ整備、教室棟のトイレ改修、浄水機能付きウォータークーラー設置、自動販売機の拡充など

【5】その他事業計画（人事・財務等）

- (1) 効率的で効果的な教職員配置
- ①年度末定年退職者に伴う専任教員体制の検討
 - ②教育課程及び高校からの入学生に対応した教職員の適正配置
 - ③定年延長制度の取扱いに向けた検討
 - ④外部（専門）人材の活用拡大の検討
- (2) 人事委員会勧告や同一労働同一賃金の考え方、最低賃金改定を踏まえた手当等の見直しの検討

(3) 事務の更なる効率化

- ① A I 活用の検討
- ② テレワーク等多様な働き方の検討
- ③ 業務委託のあり方検討

(4) 法人・大学と連携した創立 100 周年記念事業への取り組み

(4) 幼稚園 各園

【1】基本方針

キリスト教の人間観に基づき、一人ひとりの子供をかけがえのない存在として大切に育み、健全な心身の発達と人格形成の基礎を培う教育

【2】重点項目

(4) -1 認定こども園藤幼稚園

- ・藤天使学園の建学精神に基づく教育内容をさらに深め、本園の特色あるモンテッソーリ教育の質の向上に努める。

(4) -2 認定こども園函館藤幼稚園

- ・国内研修・研修会に参加するとともに、教職員の質の向上を図る。

(4) -3 苫小牧藤幼稚園

- ・藤天使学園の幼稚園としての建学の精神を大切に子ども達一人ひとりが、神様の愛を知り、人として大切な心の教育が幼児期にしっかりと築いていけるように、また、保育者も一人ひとりの子ども達を大切にしながら、子ども自身の良さを認めながら、自分で考え行動していけるような子ども主体の保育に努めていく。
- ・少ない人材で最大効果を具現するために、相互の仕事の大切さを認め合い、それぞれの力を有効に活用する一致団結の精神を持つことを求める。

【3】教育・研究事業

(4) -1 認定こども園藤幼稚園

- ・異年齢混合の縦割り保育形態の良さを発信していく。
- ・園内研修を深め、継続して園児たちに還元していきたい。
- ・本園の特色である宗教教育、モンテッソーリ教育を中心とした質の高い幼児教育の方向性をいかに維持していくか、園内研修を深めたい。

- ・地域子育ての相談役として、未満児クラスの親子に幼稚園にきてもらい、藤幼稚園の魅力を知ってもらう。そして、入園につなげていきたい。
- ・夏冬春休みの預かり保育実施、又、来年度以降の満3歳児獲得のための計画も考えていく。

(4) -2 認定こども園函館藤幼稚園

- ・園内・園外の研修の充実を図る。
- ・2歳児保育・教育の充実を図るとともに、入園に繋げていく。
- ・一人一人に合った教育・保育の資質の向上を図るとともに、集団生活における基盤づくりを各学年に応じておこなう。
- ・個別支援の必要な園児については、保護者との連携を図ると共に専門的機関にも依頼し、教育・保育の充実を図る。

(4) -3 苫小牧藤幼稚園

- ・一人ひとりの職員のスキルアップを図るため、それぞれ自己研鑽に努め、研修を通して学びの場を増やししながら、お互いを高め合っていけるようにまた、”大切にしていきたい一人ひとりの子ども達を見る丁寧な保育”は今年度も再度見つめ直し、保護者への対応、信頼関係を築き、信頼を持ちながら大切にしていく。
- ・今後も環境設定を見つめ直し、子ども達の安全、遊びの充実を図り、一人ひとりの子ども達が自分で考えて楽しめる保育、またその子自身の成長段階に合わせ課題を持ちながら、遊びを通し、友だちとの関わりを通して成長していけるような保育を目指していく。
- ・障がい児支援を必要とする園児については細やかなケアを日々研究し、園生活を通して子ども達一人ひとりの成長を全職員が共通理解し、指導・配慮していけるように心掛ける。

【4】施設・設備計画

(4) -1 認定こども園藤幼稚園

- ・2階ホールのエアコン設置
- ・未満児クラスの室内設備の整備
- ・パソコン購入

(4) -3 認定こども園函館藤幼稚園

- ・前庭・園庭の環境整備
- ・園庭の大型遊具のメンテナンス

(4) -3 苫小牧藤幼稚園

- ・各クラスにエアコンを設置
- ・園庭の芝の整備

【5】その他の事業計画

(4) -1 認定こども園藤幼稚園

- ・認定こども園になることで変化する教職員の働き方に注視し、引き続き「働き方改革」を進めていく。

(4) -2 認定こども園函館藤幼稚園

- ・保育終了後の預かり保育時間を利用しての習い事を増やす。現在は英語教室のみとしているが、ピアノ教室、ダンス教室を開講する。

(4) -3 苫小牧藤幼稚園

- ・時間を上手く活用し、働きやすい職場作りに努め、仕事の負担の軽減により、保育の活力につながられるように心掛けていく。
- ・職員同士が上手く打ち合わせの時間を作りながら、お互いを切磋琢磨し合いながら協力体制を大切に教育の資質向上に努める。
- ・畑での野菜作りを通しての食育活動を継続する為、園庭の一部を畑に作り替える。

以上